



# 児童会・生徒会による いじめ防止の取組事例集



横手市立横手明峰中学校



美郷町立六郷小学校



八郎潟町立八郎潟小学校



三種町立八竜中学校



秋田県立新屋高等学校



秋田県立比内支援学校

「いじめは人間として絶対に許されないもの」との意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底し、いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進めるためには、児童会・生徒会活動などにおける共感的な人間関係づくりや自発性・自治力の育成が大切です。

秋田県教育委員会では、いじめ問題に対応する際の参考資料として、県内の小・中・高・特別支援学校で、児童会・生徒会がいじめ問題に正面から向き合い、その根絶や未然防止に向けて全力で取り組んでいる様々な実践例を収集し、取組事例集を作成いたしました。

県内の各小・中学校で、児童生徒が主体的にいじめ問題に向き合う取組が一層充実するよう、本事例集を活用していただければ幸いです。

## 目 次

### 【小学校】

・鹿角市立大湯小学校	1
・北秋田市立前田小学校	2
・八郎潟町立八郎潟小学校	3
・にかほ市立院内小学校	4
・美郷町立六郷小学校	5
・東成瀬村立東成瀬小学校	6

### 【中学校】

・北秋田市立阿仁中学校	7
・三種町立八竜中学校	8
・秋田市立飯島中学校	9
・由利本荘市立本荘南中学校	10
・横手市立横手明峰中学校	11
・羽後町立羽後中学校	12

### 【高等学校】

・県立大館国際情報学院中学校・高等学校	13
・県立新屋高等学校	14

### 【特別支援学校】

・県立比内支援学校	15
・県立比内支援学校 かつの校	16

# 【小学校】

(小学校低学年用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、みんな力を合わせていじめをなくします。
- 三 私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。
- 五 私たちは、いろいろな人たちとなかよくし、みんなを支える一人になります。

(小学校中・高学年用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるように行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、友達の喜びや心の痛みを、その人の気持ちになつて感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえのない存在として大切にします。
- 五 私たちは、生活の仕方や文化、ものの考え方などにちがいがあっても進んで交流し、みんなを支える一人になります。



学 校 名	鹿角市立大湯小学校	児童生徒数	110人	学級数	7
-------	-----------	-------	------	-----	---

1 活動名 いじめ防止スマイル集会・OKフレンド集会

2 活動の趣旨

- ・いじめ防止に向けて、みんなで取り組むことを確かめ、思いやり・協力の気持ちを育てる。
- ・OKには、「いいよ」と認める気持ちと、大湯小（O）と草木小（K）の子どもたちみんなが仲よしでいようという願いを込めている。

3 活動の概要

(1) 第1回いじめ防止スマイル集会

時 期 4月 1年生を迎える会とタイアップ

参加児童 全校児童

活動内容 2部構成とし、第1部では「1年生を迎える会」、第2部では「いじめ防止・スマイル宣言」「なかよしタイム」等を行った。

「いじめ防止・スマイル宣言」では、運営委員会が全校目標「みんながスマイル」を発表し、その後、各学級がいじめに関する学級目標や取組を発表した。

「なかよしタイム」では、みんなで人を傷付ける言葉を言わない、1年生を楽しませるなどの約束を確認し、全校ゲームを楽しんだ。その後、全校で「フレンドシップ」を歌い、今日の自分の行動を振り返った。

(2) 第2回いじめ防止スマイル集会

時 期 11月 草木小学校との交流（平成31年度統合に向けて）

参加児童 全校児童と草木小学校（全校児童）

活動内容 昨年11月は「いじめをなくそう大作戦」という強調期間を設けて、全校を対象に「いじめを受けていないか。学校生活で気になることはないか」というアンケートを実施した。そこからいじめを根絶するために大湯小学校全校で取り組むべき三つの柱を考え、それを「いじめをなくそう三つの大作戦」とした。これを集会で発表して全校でいじめ防止に関する意識を高めた。各学年からは、4月の目標の振り返りを発表し、継続した意識付けをした。また、草木小学校でのいじめ防止に関する取組を聞くことで、多様な取組があることに気付くことができた。草木小学校の児童と一緒に自己紹介やゲームをして交流を深めた。今年度も、更にOKフレンド集会の内容を工夫し、もっと交流が深められるようなゲームや出し物を予定している。

4 これまでの成果と考えられること

いじめが悪だという意識が高まり、どんなことがいじめに該当するのか具体的に理解できた。また、異学年や他校との交流を通して、人への接し方（表情、言葉、態度）を知り、交流を楽しむ子どもが増えた。普段行っている「呼び捨てNOデー」（呼び捨てをしない）、「ふわふわメッセージカード」（異学年の友達のよさを発見してポストへ投稿する）、「ふわふわ言葉」（ちくちく言葉を使わないで、ふわふわ言葉を使おう）等を集会で実践できるよい機会となっている。また、いじめ防止に関する標語を親子で作成したり、「ほめほめメッセージ」（地域の子どものよさを伝える）を保護者からいただいたりして家庭との連携を図りながら、いじめ防止に取り組むことで、家庭内の関心を高めることができた。



【全校でいじめ防止スマイル宣言を発表しました】

5 今後の課題

この活動（集会）がマンネリ化し目標を立てるだけで終わらないように、子どもたちのいじめ根絶・防止への意欲が高まる指導の手立てを工夫していきたい。

学 校 名	北秋田市立前田小学校	児童生徒数	55人	学級数	8
-------	------------	-------	-----	-----	---

1 活動名 広げよう 笑顔の輪

2 活動の趣旨

本校では、小規模校のよさを生かした縦割り班活動や、委員会主体の全校集会など、他学年との交流を重視した活動に取り組んでいる。相手を思いやり、互いのよさを認め合う雰囲気づくりに努め、全校児童が笑顔で元気に学校生活を送れるように計画している。

3 活動の概要

(1) 縦割り班（仲よし班）活動

- ① 毎年学年ごとの挨拶運動を実施しているが、今年は仲よし班ごとの挨拶運動も実施している。決められた期間中に、高学年の班長・副班長を中心に、5～6名で構成された仲よし班での挨拶運動を行い、気持ちのよい挨拶を心がけている。
- ② 6月に「人権の花植栽」を実施している。玄関前に自分たちで植栽した花のプランターが並び、仲よし班で水やりなどの世話をしている。
- ③ 昨年度まで3年生以上で実施していた6月のななかど登山に、今年は全校児童で取り組んだ。高学年が声を掛け、小さい子の世話をしながら登り、達成感を味わうことができた。
- ④ 清掃活動、田植えや稲刈りなどの学校行事にも仲よし班で取り組み、思いやりの心で誰とも協調できるように進めている。

(2) ななかど集会

ななかど集会（児童集会）では、環境委員会が昨年度に引き続き「いじめ防止」をテーマに集会を実施し、寸劇を通していじめ根絶を訴えた。

この集会が、全校のみんなでいじめについて考えるよい機会となっている。

また、保体委員会は全校児童が仲よく遊べるように、新しい遊びの種類と遊び方を紹介した。



【環境委員会による寸劇】

(3) 北秋田市いじめゼロサミット

代表児童がサミットに参加し、各小中学校の児童生徒と意見交換を行った。今年度は、昨年度策定された「きたあきたネットいじめゼロ宣言」の三つの柱や、いじめ問題全般についての学校での取組に関するレポートを作成し、それを基にサミットで自分の考えを発表した。また、サミット後には、代表児童が報告書をまとめ、全校に紹介した。

<p>「きたあきたネットいじめゼロ宣言」三つの柱</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一 私たちは、ネットいじめにつながるような書き込みをしないよう声を掛け合い、お互いを理解し合いながら使用します。</li> <li>二 私たちは、思いやりをもったネット上での会話と、ネット上ではなく普段の生活と人間関係を大事にします。</li> <li>三 私たちは、一日二時間以内を目安に学校生活や勉強に支障が出ないように情報端末を使用します。</li> </ol>
--

4 これまでの成果と考えられること

縦割り班活動やいじめ防止に関する取組により、児童同士の主体的な関わりの場面が増えてきている。休み時間には、積極的に他学年に声を掛け、一緒に遊ぶ姿が多く見られた。全校遊びの機会も増え、学校生活全般で学年にかかわらず仲よく活動する雰囲気ができている。

5 今後の課題

直接的な関わりを通して、いじめ防止について考える機会が多いが、ネットトラブルについては身近な問題として捉える児童はまだ少ない。道徳の時間や学級活動の授業で「ネットマナー」を題材として取り上げ学習しているが、「ネットいじめ」についても、みんなで考える機会をつくっていききたい。そして、あらゆるいじめ防止の土台となる望ましい人間関係の構築を目指し、今後も縦割り班活動や集会活動を継続していきたい。

学 校 名	八郎潟町立八郎潟小学校	児童生徒数	244人	学級数	11
-------	-------------	-------	------	-----	----

1 活動名 シンポジウム「小学生にラインは必要か」

2 活動の趣旨

- (1) ラインやSNSの利用により，問題解決が待ったなしの状況であることを教師，児童，保護者がよく理解する。
- (2) 具体的な対応策の話合いを通して，本校の子どもたちが友達づくりやお互いのコミュニケーションの在り方について，今後どのようにしていくべきか確認し合う。

3 活動の概要

(1) 事前準備

4年生以上の児童，保護者，教師を対象に夏休み前にアンケート調査を行い，実態を把握した。6年生の計画委員が中心となり，アンケート結果をまとめ，問題点や対応策を考え，話合いを行った。保護者代表は，アンケート結果を基に保護者としてSNSの利用に伴う問題に，どのように向き合い対応していくかを考えた。教師は，数回にわたる会議を実施し，学校としての指導方法や必要性について共通理解を図った。

(2) シンポジウムの実際（9月26日 みんなの登校日）

- ① 開会
- ② 進行説明
- ③ テーマの説明  
「ラインとは何か」「アンケート結果から見えること」を示し，児童・保護者・学校が話し合い，問題解決の必要性を提案
- ④ シンポジストの発表  
児童代表 「利便性について」「やりたくない人の理由」「気を付けること」  
保護者代表 「必要性について」「小・中での共通理解」  
教師代表 「いじめやトラブル」「コミュニケーションの在り方」
- ⑤ 参加者の質問・意見
- ⑥ シンポジストのまとめ
- ⑦ 司会者のまとめ

(3) シンポジウム後の取組

シンポジウムでは，児童は必要，保護者と教師は，不必要という意見に至った。学校では，この結果を受け「ライン利用の約束」を具体的に決め，PTA執行部と児童に提案した。話合いの結果，本校では「9時以降はラインをやらない」「保護者がいる時に使用する」という約束を決め，保護者から学校に「ライン利用確認書」を提出してもらうことにした。



【計画委員による発表の様子】

4 これまでの成果と考えられること

- ・学校側が一方向的に「決まり」を決めるのではなく，児童，保護者，教師で問題点の解決について議論したことは，子どもたちにとってやらされる感が少なく，問題意識の高まりにつながった。
- ・保護者にとっては，これから増えることが予想されるネットトラブルに向けて，真剣に考えて理解する場となった。

5 今後の課題

ネットトラブルは，教師の目の届かない場所で起きていることから，「確認書」の提出で満足せず，機会を捉え問題把握に努めていかなければならない。教師の研修会の実施や児童への継続指導，話合いの場の設定などを行い，トラブルの未然防止を徹底していきたい。

学 校 名	にかほ市立院内小学校	児童生徒数	169人	学級数	8
-------	------------	-------	------	-----	---

1 活動名 新生院内小学校の絆づくり ～異年齢交流活動を通して～

2 活動の趣旨

平成27年4月の院内小と小出小との統合に向けて、統合前に「新生院内小学校をどんな学校にしたいか」というテーマの下に、2校の5年生たちによる熟議が行われた。統合後は、居心地のよい、温かい学校を創っていかうと、異年齢交流活動を通じた絆づくりに取り組んでいる。今年度は、行事と関連させたこれまでの異年齢交流活動だけでなく、「全校が仲よく」という6年生の願いが生きるような児童主体の活動を行うようにした。

3 活動の概要

(1) 行事と関連させた異年齢交流活動

- ① 院内ウォッチング（4月）
  - ・縦割り班でクイズを解きながら院内地区を散策する。
- ② 運動会（5月）
  - ・縦割り班で構成された各色のチームによる応援合戦を行う。
- ③ こいでんびっく（9月）
  - ・旧小出小学校校舎を使い、縦割り班で協力してクイズやゲームに挑戦する。小出小学校伝統の行事

(2) ふれあいデー

月2回の金曜昼の時間に、6年生の計画で、読み聞かせとレクリエーションを交互に行う。

- ① 読み聞かせ
  - ・6年生が絵本を選び、6年生全員が各縦割り班で読み聞かせをする。
- ② レクリエーション等
  - ・ボール遊び、宝さがし、押し相撲大会、トランプ、校内の窓ふき等

(3) 6年生全体の主体的活動

6年生が企画書を作成し、実行する。活動後はアンケートをとり、「企画→実行→アンケート→振り返り→企画」のサイクルで活動した。

- ① チャレンジデー（5月）
 

市民が運動に取り組む日。院内小学校では「全校おにごっこ」が行われた。走るの好きな児童は鬼役、そうでない児童は運営等、得意なことを生かして活動した。
- ② 校内スタンプラリー（1月）
 

アンケートの結果から企画された。「広くなった学区について、お互いのことをもっと知りたい」という思いから、院内地区・小出地区それぞれにちなんだ問題が掲示された。
- ③ 6年生まつり（3月）
 

「もっと下級生を楽しませたい」という6年生の思いから計画された。これまで培われた企画力と運営力により、工夫された様々な出店が体育館に並んだ。下級生が喜ぶ姿を見て、6年生も満足感いっぱいだった。

[企画書]

- ・活動前に作成。必要な道具、役割分担を確認

[アンケート]

- ・活動後に1～5年生が感想を書き、6年生に届ける。



【6年生まつり「自作のもぐらたたき」】

4 これまでの成果と考えられること

たくさんの職員が関わるようになり、児童は見守られているという安心感を得ている。6年生には、学年を超えた関わりで、コミュニケーション力、企画力、運営力がついた。同時に、「役に立っている自分」を活動の度に感じ、自己有用感を高めている。また、互いのよさを認め合う姿も見られるようになってきている。これらの取組を通じた、居心地のよい学校づくりは、いじめ・不登校の未然防止につながっていると考える。

5 今後の課題

5年生へ活動を引き継ぐ場を設定することで児童主体の学校づくりへとつなげていきたい。また、職員全体で児童の共通理解を進め、共通の指導や個に応じた支援ができるようにしていきたい。

学 校 名	美郷町立六郷小学校	児童生徒数	271人	学級数	14
-------	-----------	-------	------	-----	----

1 活動名 明るいあいさつ 笑顔がかがやく みんななかよし しみずっ子

2 活動の趣旨

縦割り班でのいろいろな活動を通して、コミュニケーション能力を育てるとともに、上学年では責任感と思いやりを、下学年では協力と感謝する心を育む。

3 活動の概要

(1) しみずっ子活動

① なかよくなろうしみずっ子集会（5月）

新年度のしみずっ子グループで体育館に集合し、自己紹介をしながら事前に作っておいた名刺を交換した。また、その名刺をまとめて貼り付けて班の紹介ポスターを作り、体育館廊下へ掲示した。

② わくわく町探検（9月）

六郷、千畑、仙南の三つの地区を1年交替で順番にしみずっ子グループで探検している。今年度は地元の六郷地区を探検した。途中で昼食をとりながら、10か所に設置されたクイズを協力して解きながらマップリーディングを行った。



【月曜日は「あいさつ曜日」】

③ なべっこ（10月）

鍋を調理しておいしく食べた後に、班ごとに相談して1～6年生全員が楽しめる遊びを行った。

④ ちびっこカマクラ・カマクラ集会（2月）

六郷の「カマクラ行事」にあわせて、一人一人が願いを書いた天筆をあげたり、各委員会が企画したゲームコーナーをしみずっ子グループで回って楽しんだりする活動を行った。

(2) 児童会と連携した生活習慣向上のための取組

① あいさつ運動

児童会が行ったアンケートから、あいさつについての問題点が浮かび上がり、今年度はあいさつ運動を中心に活動を展開した。特に、月曜日を「あいさつ曜日」に設定して、運営委員と各学級のその日の日直が教室を回ってあいさつの輪を広げる活動を行った。

② お昼の校内放送の活用

その日のあいさつや廊下歩行がよかった学級を毎日紹介している。また、整容検査の結果や誕生日の児童の名前も紹介している。

4 これまでの成果と考えられること

- ・高学年においてはリーダーシップを発揮することによって自己有用感が高まり、下学年ではその姿を見て規範的な行動意識が育ってきている。
- ・今年度から縦割り清掃を取り入れたことによって、日常的なふれあいが生まれ、グループのつながりが一層深まった。
- ・六小会議(代表委員会)で、運営委員会の提案に対する各学級の意見をしっかりと吸い上げて話し合い、活動内容を決めることにより、児童の自治的・主体的な取組が進められている。
- ・放送で学級の名前を呼ばれたときの児童の反応は大きいものがある。呼ばれるようにと意識して努力する姿が見られるようになった。

5 今後の課題

定期的にグループの交流を深める遊びやイベントを企画していく必要がある。また、今後は、美郷町のよさを子どもたち伝えられるような内容を取り入れて、地域との絆を深める活動を工夫していくことも重要であると考えられる。

学 校 名	東成瀬村立東成瀬小学校	児童生徒数	100人	学級数	7
-------	-------------	-------	------	-----	---

1 活動名 人と関わる楽しさや喜びを育む異年齢の交流活動 ～保・小・中連携教育から～

2 活動の趣旨

児童・生徒の主体的・共同的な異年齢の交流活動を通して人と関わる楽しさや喜びを実感させ、よりよく人と関わっていこうとする意欲や社会性を育む。

3 活動の概要

(1) 「キバナコスモス植栽活動」～小・中連携教育から～

- ・キバナコスモスを育てることを通し、命を大切にする「優しい心」、地域のために「奉仕する心」、友達と「協力する心」の三つの心を育むことを目的として実施。小・中学生が縦割りグループをつくり、地域のボランティアの方と一緒に、年長者が年少者にアドバイスをしながらキバナコスモスの種を植栽した。
- ・咲いた花は、ふるさと先生の指導をいただきながら、おし花にして作品やしおりを作り、校内に掲示したり、地域の施設や首都圏なるせ会の方へプレゼントしたりしている。
- ・採集した種は、学習発表会に来ていただいた家族や地域の方々へ、感謝の気持ちとして、全校児童のメッセージを添えて、児童からプレゼントしている。
- ・活動前には事前学習を行い、学年の発達の段階に応じためあてをもって活動に取り組めるようにしている。また、事後には自分の取組を振り返って作文に表し、各学級の廊下や今月の作文コーナーに掲示した。児童の振り返りには、「ここを通った人が笑顔になるようにと思いつながりながら植えました」「中学生から教えてもらったおかげで、きれいにできましたと思います」「中学生のような、頼りがいのある6年生になりたい」など、関わりを通して感じた喜びやこれからの目標等についての記述が見られた。



【一緒に種を植えている様子】

(2) 「委員会の保育園訪問」～保・小連携教育から～

- ・1学期には健康美化委員会が保育園を訪問し、全校集会で発表した「虫歯の予防」についての内容を、園児向けに分かりやすく再構成して発表した。また、小学生が授業で学習した詩の音読を保育園で発表したり、保育園運動会においてボランティアとして協力したりするなどの活動も行っている。これ以外にも、小学校と保育園が隣接しているよさを生かし、保育園児による小学校のミニ集会（各学年の発表集会）参観などを年間計画に位置付け実施している。

(3) 「ふれあい集会」～縦割りグループを活用した異年齢交流活動から～

- ・全校縦割りグループを活用し、知恵を出し合って問題を解き合うクイズラリーやジャンケン列車、クリスマスリースづくりなど、全校児童が楽しめるゲーム的な内容の集会を実施した。「どの学年も楽しめること」「みんなでふれあったり、協力したりできるもの」などの視点を持ち、児童会がアイデアを出し合って話し合い、企画・実施している。

4 これまでの成果と考えられること

- ・年長者からほめられたり、年少者から感謝の言葉をもらったりする機会を積み重ねてきたことにより、自己存在感や自己有用感を感じ取り、共感的な人間関係が育ってきている。
- ・異年齢や地域の人とふれあう場を年間計画に位置付け、個々にめあてをもたせる事前指導と振り返りの時間を設定して実施してきたことにより、目的意識をもって取り組んだり、人と積極的に関わっていこうとしたりする姿が見られるようになってきた。

5 今後の課題

- ・アンケートや振り返りでの自己評価が低い子どもへの対応や働き掛け方を検討していきたい。
- ・交流活動の効果を高める、事前・事後学習の在り方を研究していきたい。

# 【中学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。

五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。



学 校 名	北秋田市立阿仁中学校	児童生徒数	46人	学級数	4
-------	------------	-------	-----	-----	---

1 活動名

繋がる心, 46人の心をつなにして 2016

2 活動の趣旨

学年の枠を超えて互いに声を掛け合ったり話し合ったりするなど、周りとの関わりを大切にすることで、安心して学校生活を送ることができ、一人一人の力がより発揮できるようにする。

また、相手の気持ちを考え、全校生徒が心をつなにして阿仁中をよりよいものにしていくという態度を育てる。

3 活動の概要

(1) 「ハートフルメッセージ」の掲示・みんなの心をつなにしていくという思いを伝える活動

入学したばかりの新生徒が安心して学校生活を送れるようなメッセージ、大会・コンクールへ向かう部員が自分のために仲間のために全力を尽くそうと思えるようなメッセージ、体育祭で全校生徒の心が一つになれるようなメッセージ等、その時期、行事に合わせたメッセージを執行部や各委員会を考え、生徒玄関上の2階の窓に掲示して、登校した生徒がすぐ目に入るようにしている。

(2) 「様々なグループ」を作ったの挨拶運動の実施

大きな声で挨拶ができることが阿中生の伝統である。さらに、様々な人と関わる機会をつくり、その後もお互いに会話できる関係を築きたいと考え、執行部が毎月、様々なグループでの挨拶運動の割当てを決めて実施している。部活ごと、委員会ごと、学年ごとだけでなく、全校合唱パート別、各部主将部長、各委員長副委員長、徒歩通学男子・女子など、ユニークなグループで挨拶運動を行う日もある。

(3) 全校「語り合う会」の実施（7月・12月）

「一人一人が次の目標をもち、前向きに学校生活を送れるようにする」「お互いの思いや考えを知り、新しいものの捉え方に出会ったり、共感したりすることができる」などをねらいとして年2回、全体で語り合う会を実施している。語り合う会では、生徒会テーマを達成するために、どんなことに挑戦しているか、数か月前の自分と比べてどんなことが成長したか、これからの目標は何かなどを語り合う。

執行部がコーディネーターを務め、更に中身の濃い語り合いになるように話題を広げることにも取り組んでいる。友達関係の話題にもなりお互いの考えを知るよい機会となっている。



【自分の思いを全校に語る生徒】

4 これまでの成果と考えられること

- ・学年関係なく、誰にでも挨拶することができ、互いに声を掛け合って仲よく生活している。
- ・周りの人に温かく接したり、励ましたりしている生徒が多い。
- ・先輩の望ましい姿に憧れ、先輩のようになりたいと前向きな気持ちで取り組む生徒が多い。
- ・相手に対して思ったことは、SNSを利用せずに直接会って本人に話したいと考えている。

5 今後の課題

- ・「語り合う会」では、自分から相手に質問したり、自分の考えをはっきりと最後まで伝えたりするなど、もっと本音で言い合えるようにしていきたい。
- ・SNSの利用等、全校生徒の現状を把握し、問題点を改善できるように話し合っていきたい。
- ・挨拶の更なる向上のために、阿仁中の伝統である「挨拶」について今後どうしていくとよいかを考えていきたい。

学 校 名	三種町立八竜中学校	児童生徒数	137人	学級数	7
-------	-----------	-------	------	-----	---

1 活動名 生徒会テーマ「優言実考」の下、みんなで取り組むいじめゼロ

2 活動の趣旨

- (1) いじめの定義を再確認し、自分の言動を振り返りながら、いじめのない八竜中を目指す。
- (2) 全校・学年・学級で取り組むことでいじめを未然に防止していく雰囲気醸成する。
- (3) 全校生徒・全教職員が「いじめについての自分の考え」を宣言し掲示することで、いじめに対して真剣に取り組む一体感をアピールする。



【執行部が宣言例を紹介】

3 活動の概要

平成28年5月6日（金）6校時

- (1) 八竜中生徒会いじめゼロ行動集会（体育館）  
生徒会執行部進行
  - ・いじめの定義を再確認
  - ・八竜中のいじめに対する考え方の再確認と宣誓
  - ・校長から「三種の子 自立プラン」の確認といじめについて
- (2) いじめゼロ学級活動
  - ・いじめのない学級を目指すことを確認
  - ・いじめに対する自分の考えをNHKいじめを考えるキャンペーンの行動宣言用紙と学級掲示用紙に記入
  - ・意見交流・発表・学級担任の話
- (3) いじめゼロ宣言の掲示と地域への発信
  - ・NHKのHP掲載（6月）、北羽新報社、秋田魁新報社から地域へ発信してもらい言動に責任をもつ

4 これまでの成果と考えられること

- (1) 生徒会主体の形を取りながら、教師がしっかり支えて取り組むことから、いじめ問題は人ごとではなく「自分たち一人一人の問題なのだ」という意識を強くもって生活するようになった。
- (2) いじめの定義を再確認して各自が宣言することで、自分だけではなく周囲へ目を向けられるようになり、気になることは、教職員に相談しながら解決しようとする雰囲気づくりにつながった。教職員も宣言し廊下に掲示したことが、生徒との連携を強くしたと考える。
- (3) 昨年度、PTAと教職員、生徒会で作成した「八竜の子 自立プラン」が三種町全体で共通実践されることになり、生活のルールとともに、いじめの問題についても振り返る機会となった。教職員は各種アンケート等で生徒の状況を把握した上で、いじめの問題についても生徒会に働き掛けながら未然防止に取り組んできた。

5 今後の課題

- (1) 「三種の子 自立プラン」では携帯端末機器を持たせない、持たせたとしても使用時間や保管場所など家庭でルールを決めることになっているが、何かしらのトラブルがあるといじめや不登校の問題として学校に救援を求める保護者も少なくない。また、いじめの問題は、時代とともに形を変えているので、自己指導能力を身に付けた生徒の育成を目指し、2学期には保護者や生徒を対象に「三種の子 自立プラン」の評価アンケートを行い、調査結果を生徒にフィードバックしながら考えさせ、今後の学校生活に活かしていきたい。
- (2) 学級力アンケートの結果をレーダーチャートで示し、よりよい方向に向かうためにどんなことを意識して取り組んでいくか全学級で話し合いを行っている。今後、教室が心の居場所になっているかなどを生徒間で検証し、新たな取組へとつなげる契機としていきたい。

学 校 名	秋田市立飯島中学校	生徒数	368人	学級数	15
-------	-----------	-----	------	-----	----

1 活動名 「ありがとうプロジェクト」の実施 身の回りの人に対する感謝のメッセージ

## 2 活動の趣旨

生徒会執行部の話合いの中で、いじめのない明るい学校にするために、「互いに優しい言葉や行動を心掛けることを通して、みんなに笑顔を広げる」「周囲に対して『ありがとう』という感謝の気持ちをもって生活する」という目標を決定した。

この目標を実現するための活動の一つとして、「ありがとうプロジェクト」を生徒総会で提案した。具体的には期間を設けて「ありがとう」のメッセージ回収箱を各教室に設置し、回収したメッセージを学年ごとに掲示して、身の回りの人に対する感謝の気持ちをお互いに確認し合うことができるようにした。

## 3 活動の概要

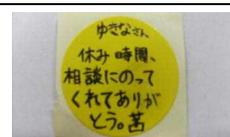
5月上旬に実施した前期生徒総会で、生徒会執行部から全校生徒に活動の趣旨と活動方法について提案した。全校生徒の承認を得て、5月中旬から下旬にかけて2週間活動を実施し、6月上旬から夏休み前までメッセージを掲示した。次に8月下旬から9月上旬にかけて第2弾の活動を2週間実施し、9月中旬から10月上旬にかけてメッセージを掲示した。

具体的な活動としては、各学級にメッセージ用のシールを準備して、帰りの会などの時間に一日の生活を振り返る中で、全校生徒が身の回りの人に対する感謝のメッセージ記入した。書き終えたメッセージは、各学級で回収箱に保管した。生徒会執行部が2週間分のメッセージを回収して、学年ごとに全員のメッセージを貼った掲示物を作成し、1Fホールに掲示した。



【3年生のメッセージ】

- ・ワークの問題教えてくれてありがとう(1年)
- ・いつも一緒に帰ってくれてありがとう(1年)
- ・毎日委員長の仕事を頑張ってくれてありがとう(2年)
- ・委員会の仕事を手伝ってくれてありがとう(3年)
- ・いつも部の練習を引っぱってくれてありがとう(3年)



【実際の生徒のメッセージ例】

休み時間や放課後の時間には、多くの生徒が掲示された感謝のメッセージを見に来ていた。メッセージを書いた人の心だけでなく、メッセージを見る人の心も温かくする活動であった。「第二弾ありがとうプロジェクト」の各学年メッセージを学校祭で掲示し、地域の方にも紹介した。

## 4 これまでの成果と考えられること

一人一人がありがとうのメッセージを記入する中で、周りの人と自分との関わりを見つめ、あらためて他者に対する理解と感謝の思いを深めることができた。また、掲示物を見合うことで、生徒たちはお互いを認め合い、称揚し合うことの意味と人の心の温かさを実感した。

## 5 今後の課題

生徒たちは中学生サミットの「いじめ防止」に向けた話合いを通して、いじめをなくすためにはいじめを探す活動を行うこと、ただ仲よくなるだけではなく、お互いのよいところを見付けることの大切さを学び、それが今回の活動の提案につながった。生徒たちが、「いじめ防止」をどのように考えていくか、各学校間の意見交流や講話会の機会が必要であるとする。

さらに、ボランティア活動を柱として、地域や外部の方との交流の中で善意と優しさにあふれる学校づくりを目指したいと考えるが、そのために、地域社会やボランティア協会と積極的に連携を図りたい。

学 校 名	由利本荘市立本荘南中学校	児童生徒数	311 人	学級数	13
-------	--------------	-------	-------	-----	----

1 活動名 生徒会による「絆づくり」

## 2 活動の趣旨

本校では、生徒の自己有用感の醸成といじめ・不登校の未然防止のための取組として、「居場所づくり・絆づくり」を全校体制で進めており、生徒会活動においては「南中宣言の読み上げ」や「地域を巻き込んだ挨拶運動」「生徒会アワー・学級討議」を通して学年、学級の枠組みを超えた「生徒相互の絆づくり」「地域と学校の絆づくり」を展開している。定期的に生徒会アワーや学級討議、学級プログラム委員会の時間を設定し、「自治能力の育成」と「自分たちの問題は自分たちで解決していくという態度の育成」を目指している。

## 3 活動の概要

### (1) 全校生徒による「南中宣言」の読み上げ

4月に行う生徒会入会式において、生徒会活動の意義や内容について確認の後、全校生徒で「南中宣言」（2分前行動や挨拶・返事等の励行）を読み上げ、全校生徒で重点的に取り組む内容を明確にし、共有している。また、毎週月曜日の朝に各クラスが全員で「南中宣言」を読み上げることにより、「南中宣言」を意識した生活を目指している。

### (2) 地域を巻き込んだ「挨拶運動」の展開

#### ① 鶴舞小児童会・本荘南中生徒会合同会議

7月と9月には「小・中が連携して地域に貢献できることは何か」について話し合い、地域の方々と連携して「小中合同挨拶運動」を行うことを決定した。これを受けて、7月と10月に「小中合同挨拶運動」を地域の方々と一緒に実施した。



【鶴舞小・本荘南中合同会議】

#### ② 全校の絆を深める「挨拶運動」「激励文作成」の取組

生徒会の挨拶運動に加え、3年生全員による輪番制挨拶運動、新人戦激励挨拶運動、各種大会における激励文の作成など、時宜を捉えた取組を工夫している。

### (3) 自治意識・自治能力を育成する生徒会の取組

#### ① 生徒会アワーの設定

月に1回、生徒会の取組（全校・学年・学級の生徒会運営部の取組）について各クラスで話し合いを行っている。どのクラスともリーダーを中心に自治的な話し合いがなされ、リーダーの育成、自治意識・自治能力の向上に寄与している。

#### ② 学級討議の時間の設定

生徒総会前に学級討議を行っている。これは、生活・学習、生徒会運営部における活動上の諸問題について、事前に話し合った上で生徒総会に臨むという取組である。

## 4 これまでの成果と考えられること

学校生活アンケートによれば、「学校生活が楽しい」「友達や先生はあなたを理解している」という設問に対し「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒は90%を超えている。このことから、生徒会を中心に進めた、学年、学級の枠組みを超えた「絆づくり」が、生徒一人一人の学校への所属感を高めているものと考えている。また、由利本荘市で実施しているいじめについてのアンケートで、いじめを訴える記述が昨年度と比較して減少したほか、不登校傾向にある生徒の数も減少している。

学年が進むにつれて自分たちの問題は自分たちで解決する意識が高まっており、生徒会アワーや学級討議での話し合いは活発である。また、上級生による挨拶運動によって、全校で挨拶を頑張ろうとする気運が高まるなど、自分たちの力でよりよい学校にしていこうとする3年生の姿は下級生のよい模範となり、学校の一体感を醸成している。

## 5 今後の課題

地域の方々と挨拶運動や学年学級の枠を超えた挨拶運動、学級討議、プログラム委員会等の活性化を通して、「生徒の手による絆づくり」を一層充実させていきたい。「自分たちの問題は自分たちで解決する態度の育成」を重点課題として、「絆づくり」を進めていく。

学 校 名	横手市立横手明峰中学校	児童生徒数	473人	学級数	20
-------	-------------	-------	------	-----	----

1 活動名 MHR (Meiho Heart-warming Relationship) 活動の推進  
 ～心をひらき 心通わせ もっと自分が好きになる もっとみんなが好きになる～

2 活動の趣旨

いじめの未然防止に向けて、仲間との絆を深め、望ましい人間関係を構築することが極めて重要である。そこで、本校では自他を認め、他とよりよく関わることができる心情や実践力を育む一連の活動をMHR活動(心が温かくなる関わり合い)と称し、心と心のふれあいを大切にしている日々の学校生活を送っている。

3 活動の概要

(1) 「明峰PRIDE宣言」を意識した学校生活

昨年度、全校生徒による生活実態調査の結果を基に数回にわたるMHR集会を経て、「情報端末の利用」「人との関わり」「生活習慣」を3本柱に据えた「明峰PRIDE宣言」が制定された。この宣言には、例えば「情報端末の利用は多くて1時間、22時まで」というように具体的な行動指針や目指す明峰生の姿も盛り込まれており、生徒にとっては充実した学校生活を送るための道しるべとなっている。また、生徒会活動や学級活動においても、これらを意識した活動が随所に展開されている。



【生徒による生徒のための「明峰PRIDE宣言」】

(2) ほめほめの花～皆の心で、大きな花を咲かせよう！～

何気ない日常の中で見つけた仲間のよさに気付いた人が、その内容を1枚の花びらに見立てた付箋に記入し、クラスごとに掲示している。初めは数枚の花びらも、今では温かな気付きが大輪の花となって、各学年ホールを彩っている。また明峰祭当日(10月2日)には、生徒会執行部の企画により、来校した保護者や地域の方に本校生徒の頑張りを付箋に記入してもらったり、校内の至る所で各部門ごとに頑張っていた仲間同士を称え合ったりした。

(3) MHR集会 I ～心温まる瞬間を共有しよう～

11月14日、これまでの学校生活の中で生徒自らがMHRを強く感じた場面を紹介し合いながら、地域に発信する明峰生のよさについて話し合った。仲間から心温まるエピソードを紹介された生徒が、照れながらもその仲間に感謝の気持ちを伝えるなど、全校でMHRを感じることができた集会となった。さらには、今後どのようにMHRを発展させていけばよいかについて、意見交換した。今後、これらの話合いに基づいて学校新聞を作成し、12月19日付け秋田魁新報に掲載する予定である。



【兄弟学級でエピソードを語る生徒たち】

4 これまでの成果と考えられること

MHR活動が本校生徒にとって自慢できる活動の一つとして定着していることが、自他のよさを様々な場面で臆せず、堂々と表現している生徒の姿から感じられる。また、みんなのために、クラスのために頑張ろうという生徒一人一人の意識の高まりも随所に見られる。

5 今後の課題

自他を認め、人と温かな関わり合いを保っていくことは、生涯にわたって必要な力であると考えている。小・中連携によるMHR活動の更なる推進とともに、この活動で身に付けた力を校内に止まらず、地域でも存分に発揮できるような機会を設けたり、積極的な活用を呼びかけたりしていきたい。

学 校 名	羽後町立羽後中学校	児童生徒数	338人	学級数	14
-------	-----------	-------	------	-----	----

1 活動名 みんなで考える思いやりの心 ～SNSのルールを振り返る集会活動を通して～

2 活動の趣旨

生徒のコミュニケーションツールとして欠かせないものになってきているSNS。インターネットを介したやりとりの中で、言葉が乱暴になったり、無意識のうちに相手を傷付けたりすることもある。SNSのルールについて、保護者も交えて話し合いを行い決定した上で、互いに気持ちよく使用するためには、更にどうすればよいか振り返る活動を通して、思いやりの心の大切さを再確認し、いじめの未然防止を図る。

3 活動の概要

(1) 学級討議【7月21日】

既存のSNSのルールについて確認し、守られていたか、守られていない場合の原因は何か、どうしたら守れるようになるかを話し合った。その後ルール見直しのための学級代表プロジェクト委員を決めた。

(2) インターネットセーフティーを考える親の会学習会【7月27日】

保護者対象の「考えようSNS，大人が支える！学習会」を開催。SNSのルール作りの協力も兼ね保護者の立場からネット利用の決まりを考える機会とした。(保護者参加15名)

(3) 全校パネルディスカッション【8月31日】

生徒会からみんなで守ることができるルールにしていくために考えていこうという趣旨説明をした後、プロジェクト委員生徒3名、保護者2名のパネリストでパネルディスカッションを実施した。フロアとの協議も交えながら次のような意見が出された。

- ・ 9時以降に使用しないことも大切だが、学習時間の確保を考えると、使う時間を1時間とし、その時間を自分で決めた方がよいのではないか。
- ・ 高校に行くときほとんどの子がスマホを持つという実情である。親として、みんなで作ったルールを意識して使ってほしい。
- ・ LINEで仲よく、もいいが、不特定多数が参加しているネットワークだと承知の上で使おう。
- ・ 誹謗中傷をなくすよう徹底して頑張っていきたい。

(4) 新ルールの作成及び提案・実施【9月29日～】

- ・ 生徒会・プロジェクト委員でルール作成が始まる。
- ・ 作成したルールを全校生徒及び保護者に提案し、実施した。

(5) 全校情報モラル教室【10月28日】

情報モラル教室での講話の後、新ルール実施1か月後のアンケート結果を発表し、意見交換をした。



【保護者参加のパネルディスカッション】

(旧) UGO羽後中SNSルール

- ・ 午後9時以降の使用はやめる
- ・ 自己管理をしっかりとする
- ・ フィルタリング機能を利用する
- ・ 相手の気持ちを考えて利用する
- ・ 平日2時間未満・土日3時間以内

みんなで考える思いやりの心

(新) UGO羽後中SNSルール

- ・ 午後9時以降の発信はやめる
- ・ 情報端末の自己管理をしっかりとする
- ・ フィルタリング機能を利用する
- ・ 相手の気持ちを考えて発信する
- ・ 平日1時間未満・休日3時間以内
- ・ 個人情報、人物の写真をネット上にあげない

4 これまでの成果と考えられること

新ルールを考える中で、相手を思いやる心が高まり、アンケートにも「互いに気持ちよく過ごすためには、どうすればよいかということを中心に心掛けるようになった。」という意見が多数見られた。また話し合いの中で、「何気なく発信した内容でも相手が傷つくことがあることを知り、ルールを守ることが互いを守ることにもつながる。」という意見も多く出された。

5 今後の課題

新ルールでの取組が始まり11月で1か月を経過したが、ささいなネットトラブルはまだ散見される。生徒の自己決定の下にスタートしたルール作りを大切に、この後も定期的なアンケート等による振り返り、見直しを図りながら継続性のある活動となるよう指導していきたい。

# 【高等学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。

五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。



学 校 名	大館国際情報学院中学校・高等学校	児童生徒数	751人	学級数	22
-------	------------------	-------	------	-----	----

### 1 活動名

K J K I P ～ココロ・育成・プロジェクト～

### 2 活動の趣旨

教師主導ではなく、生徒自らの考えを生かすことで、生徒の中にルールを守ろうという意識が芽生え、いじめを起きにくくする土壌づくりができると考えた。また、平成27年7月の岩手県矢巾町の事例を対岸の火事と考えずに、いじめについて学校全体が真剣に考える機会として、この取組の意義はあるものと考えた。

### 3 活動の概要

平成28年1月から、いじめに関するルールづくりを開始した。まず、学級担任から生徒に趣旨を説明し、いじめ実態アンケート（生徒会作成）を実施した。その後、アンケート結果を踏まえ各クラスで協議を行い、いじめをなくすための方策をクラス案として提出してもらった。中高生徒会で各クラス案を基に生徒会案を作成し、それをPTA生徒指導専門部に提案した。保護者からの要望も取り入れ、職員会議で提案、その後、「K J いじめなくそうよ宣言」において、「K J K I P ～ココロ・育成・プロジェクト～」として以下の3項目6か条を発表した。

#### ① いじめを深く理解するために

- 1か条：相手を尊重しながら愛のある関わり方をしよう
- 2か条：親しき仲にも礼儀ありという意識をもとう

#### ② いじめを予防するために

- 3か条：いじめが起きないような雰囲気をつくらう
- 4か条：それぞれの個性を認め合おう

#### ③ いじめを解決するために

- 5か条：やめると言える勇気、助けてあげる勇気をもとう
- 6か条：相談しやすい環境をつくらう

### 4 これまでの成果と考えられること

作成段階で全校生徒がいじめについて真剣に考える機会をもてたことは、大きな成果であると思う。加えて「相手を尊重した、愛のある関わり方」を考える際、普段の自分の言動を見直すこととなり、生徒間に相手を思いやる気持ち生まれ、人間関係もよりよくなった。



【中高生徒会の宣言】

### 5 今後の課題

学期ごとにアンケートを実施し、内容の改訂を行うとともに、いじめについて定期的に考える機会を設けることを継続していきたい。

学 校 名	秋田県立新屋高等学校	児童生徒数	545 人	学級数	15
-------	------------	-------	-------	-----	----

1 活動名

スクールマナー教室において寸劇を通していじめ問題を考える

2 活動の趣旨

① 礼儀作法（挨拶）②言葉遣い③身だしなみの3点を柱に、生活行動、登下校時のマナー、携帯電話やスマートフォンの使用のルール、交通事故防止、緊急事態時の対応、そして最も重要とするいじめ問題等について、パワーポイント、危険箇所の写真、寸劇などによって説明を受けることで、日々の生活への心構えを新たにするとともに、落ち着いた心と高校生らしさを身に付け、自分自身を内面から高めることを目的とする。

3 活動の概要

「いじめに相当するケース」の生徒による寸劇での内容

- (1) 登校時、特定の生徒に数人が鞆を持たせる。
  - (2) 休み時間、特定の生徒へのからかいや無視
  - (3) 授業でグループ活動の際、仲間に入れない。
  - (4) 授業で特定の生徒への嫌がらせ
  - (5) 昼休み、実際の代金より少ない金額を渡し、パンや飲み物を買に行かせる。
  - (6) 部活動時、特定の生徒に対し厳しい練習メニューを課す。
  - (7) 部活動時、特定の生徒の道具を隠す。
  - (8) 帰宅後、ラインのグループから特定の生徒をはずす。
- ※その都度説明と注意を加えながら進める。



4 これまでの成果と考えられること

【「いじめに相当するケース」の生徒による寸劇】  
いじめが起こり始めた直後、初期段階を早急に把握し丁寧に対応することが重大事故の未然防止につながるを考える。

本校では「いじめアンケート」「悩み相談ボックス」等に生徒からいじめ等に関する情報が寄せられる。いじめは”ゼロ”でなければいけないが、本当に”ゼロ”はあるのだろうかと考え、本校ではどんな小さなことでも情報として寄せることとしている。その情報を基に、チームでの対応と継続した観察が重大事故の未然防止につながっている。スクールマナー教室を始め、各集会や生徒指導部だよりで、情報を伝える場所と解決手段を常に明確にしているシステムが全校生徒のいじめに対する意識の高さにつながり、それが“伝える”といった行動に現れている。

5 今後の課題

担当した野球部の主将が、「監督に場面設定や台詞を自分たちで考えて演技するように言われて実演したが、どれもとても幼稚で恥ずかしい行動だと実感した」と、寸劇を実演した感想を述べた。私たちは時間とともに覚えたことをどんどん忘れていく。大切なことは、どのようにして忘れないようにするか工夫して努力することである。話を聞いたり読んだりするよりも、具体的な場面を体験したり、生徒間で教え合ったりすることによって、記憶がより深くなる。自ら考え体験し、そして実感する。このシステムを更に構築していくことが、いじめの防止には不可欠と考える。

# 【特別支援学校】

(小学校低学年用)

## 秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、みんな力を合わせていじめをなくします。
- 三 私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感ぜたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。
- 五 私たちは、いろいろな人たちとなかよく、みんなを支える一人になります。

(小学校中・高学年用)

## 秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるよう行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、友達への喜びや心の痛みを、その人の気持ちになつて感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえない存在として大切にします。
- 五 私たちは、生活の仕方や文化、もの考え方などにちがいがいる人々とも進んで交流し、みんなを支える一人になります。

(中・高校生用)

## 秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。
- 二 私たちは、いじめを見逃さず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。
- 五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。



学 校 名	秋田県立比内支援学校	児童生徒数	93人	学級数	14
-------	------------	-------	-----	-----	----

1 活動名 お悩みBOXの設置と呼び掛け

2 活動の趣旨

学校生活の中で困っていることや悩んでいることを、一人で悩まないで誰かに相談し解決できるようにお悩みBOXを設置した。「明るく、一人一人の笑顔が絶えない学校」にしようという思いを込めて、児童生徒会メンバーがその活用と呼び掛けた。

3 活動の概要

昨年度、児童生徒会で始めた活動を今年度も継続し、実施した。

【活動の時期】

今年度の5月の全校集会で全校の児童生徒に紹介し、その後、年度末まで設置する。なお、お悩みBOXの設置場所は、安心して利用したり、悩みを相談したりできるように、保健室とした。

【参加児童生徒】

児童生徒会メンバー（生徒会長1名、副会長：各学部1名、学級委員長（高等部）6名の計10名）が、お悩みBOXの設置と呼び掛け等の活動を行う。活用は、全校の児童生徒が対象となる。

【活動の内容等】

お悩みBOXのポスターを作成し、校内に掲示。チラシを作成し、昼休みの時間帯に全校児童生徒に配付、活用と呼び掛けた。

また、昨年度の反省を生かして記入用紙を書きやすいものに変更した。

写真は、玄関ホール前でチラシの配付と呼び掛けの活動をしている様子。



4 これまでの成果と考えられること

児童生徒会メンバーは、お悩みBOXを設置したり、呼び掛けたりする活動を通して、「全校の児童生徒の悩みがなくなり、元気になってほしい」、「学校を明るくしたい」という気持ちが強くなった。また、中、高等部の生徒を中心に身近な先生や友達に悩みや気になることを気軽に話したり、相談したりすることが増えてきた。さらに、面談の他、教師が積極的に児童生徒の話を聞く機会を設定することで、ストレスをためないで学校生活を送り、問題行動が減っていると感じる。

5 今後の課題

お悩みBOXを積極的に活用することはまだ少ないが、身近な友達や教師に話をしたり、相談したりする機会は増えている。受け取った悩みを解決するとともに、友達を優しく気遣う児童生徒相互の関わりが増え、穏やかな笑顔で溢れる明るい学校を目指したい。そのために児童生徒会のメンバーで更に主体的に考えていくことができるよう支援していきたい。

学 校 名	秋田県立比内支援学校 かつの校	児童生徒数	51人	学級数	14
-------	-----------------	-------	-----	-----	----

1 活動名

みんなの合い言葉「いじめは絶対許さない！」

2 活動の趣旨

- ・いじめとはどういうことかを再確認し，中学部，高等部合同の学部集会で話し合い活動を行うことで，「いじめは絶対に許さない！」という意識を高める。

3 活動の概要

活動の時期	10月12日（水）の中学部, 高等部合同の学部集会
参加児童生徒	中学部全員，高等部全員
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめとはどういうことかという内容を，質問形式で再確認する。</li> <li>・「学校にあふれさせたい，あったか言葉」と「こんな学校にしよう！増やしたいこと，なくしたいこと」について縦割り班で話し合いをする。</li> <li>・出た意見と合い言葉をみんなで共有し，学校生活で実践する。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  <p>【自分たちで進行している話し合い活動の様子】</p> </div>

4 これまでの成果と考えられること

【成果】

- ・いじめとはどういうことかという内容を再確認したことで，自分たちの身の周りで起こり得るであろうことを改めて認識した。
- ・中学部と高等部合同で身近なテーマでの話し合いを行ったことで，今後の取組をみんなで決め「いじめは絶対に許さない！」という意識を自分たちで高めることができた。
- ・今まではからかわれている生徒の近くで傍観者だった生徒が，相手に言葉を掛けて止めさせようとするなど，自分たちでいじめの防止をするという気持ちが強くなった。

【考えられること】

- ・からかいを行っていた生徒が，自分の行動を改め，からかいが少なくなる。
- ・いじめ防止に取り組むことで，相手の気持ちを考えて行動することが増える。

5 今後の課題

- ・全校児童生徒一人一人のいじめ防止に関する意識を更に高める。
  - ▶ 年度始めに，いじめはどのようなことかという内容を児童生徒同士で教え合う機会の設定
  - ▶ 児童生徒で話し合った内容を全校の縦割り班で定期的実践する。
  - ▶ 年度末には児童生徒自身が分かるような成果を伝えたり，今年度の課題を基に次年度具体的に実践できるような（「今日のあったかさん」の紹介，あったか言葉運動期間の設定等）計画を立てたりする。



北秋田市立阿仁中学校



北秋田市立前田小学校



羽後町立羽後中学校



東成瀬村立東成瀬小学校



比内支援学校かづの校



にかほ市立院内小学校



秋田市立飯島中学校



由利本荘市立本荘南中学校



大館国際情報学院中学校・高等学校



鹿角市立大湯小学校

